



# 式典行事



## □ 概要

平成30年10月28日(日)、高知市文化プラザ「かるぽーと」を会場に、天皇皇后両陛下の御臨席のもと、全国各地からの招待者など682名が参加し、式典行事を開催しました。

## □ 進行表

時間	プログラム	出演者等	
9:35	オープニング映像		
9:42	オープニング『出会い』	【ナビゲーター】 山崎 はるか  【子ども海援隊】 高知市立春野東小学校 高知市立春野西小学校  【土佐おもてなし海援隊】 中岡慎太郎、吉村虎太郎、坂本龍馬、武市半平太、ジョン万次郎、岩崎弥太郎	
	第1章『水の旅のはじまり』		
	第2章『“舟母船”で行こう！』		
	第3章『さあ！黒潮の大海原へ！』		
	フィナーレ『海の讃歌』	神楽：梶原ディスカバークラブ (高知県立梶原高等学校) ダンス：高知リトルプレイヤーズシアター 太鼓：土佐室戸勇魚太鼓 一本釣りパフォーマンス：國土舞双 歌：岡本 知高 (ゲスト・ソプラニスタ) コーラス隊：高知県立高知丸の内高等学校、土佐女子中学校、高知学芸中学校、国立大学法人高知大学	
10:12	受賞者紹介映像		
10:19	進行概要説明		
10:22	登壇者紹介		
10:30	天皇皇后両陛下御臨席	(御先導) 高知県知事	
	大会旗入場	(先導) 認定こども園潮幼稚園・うしお保育園 (旗手) 高知県立高知南高等学校 (受取) 高知県議会議長	
	開会のことば	高知県漁業協同組合連合会代表理事会長	
	国歌斉唱		
	主催者あいさつ	大会会長、高知県知事	
	歓迎のことば	高知市長	
	表彰	功績団体表彰受賞者代表、作品コンクール受賞者代表	
	最優秀作文の発表	大会会長賞受賞者代表	
	稚魚等のお手渡し	(お受け者) 仁淀川漁業協同組合代表理事組合長、四万十川漁業協同組合連合会代表理事会長、高知県漁業協同組合理事、高知県漁業協同組合上川口地区 地区委員長 (介添者) 高知県立高知南高等学校	
	海づくりにメッセージ	オープニング	子ども海援隊：高知市立春野東小学校、高知市立春野西小学校  【ナビゲーター】 山崎 はるか  【土佐おもてなし海援隊】 坂本 龍馬  【ゲスト・ソプラニスタ】 岡本 知高
		SCENE-1 未来を担う子どもたちからのメッセージ	
		SCENE-2 防災について学ぶ高校生のメッセージ	
		SCENE-3 若手漁業者のメッセージ	
	エンディング 参加者全員でつくる高知の森・川・海	【若手漁業者夫妻】すくも湾漁業協同組合理事、高知県漁業協同組合員	
	大会決議	豊かな海づくり大会推進委員会会長	
	大会旗引継、次期開催県あいさつ	高知県知事、秋田県知事	
	閉会のことば	高知県議会議長	
	天皇皇后両陛下御退席	(御先導) 高知県知事	
	11:29	表彰式	功績団体表彰受賞者、作品コンクール受賞者
		エピソード	國土舞双、Wonder なみえ、高知市役所踊り子隊
12:09	終了		

司会進行：井津 葉子 (RKC高知放送アナウンサー)

式典補助員：高知県立高知南高等学校

式典音楽隊：高知県立高知西高等学校

手話通訳：高知県登録手話通訳者

要約筆記：特定非営利活動法人 要約筆記高知やまもも



□ 式典行事会場

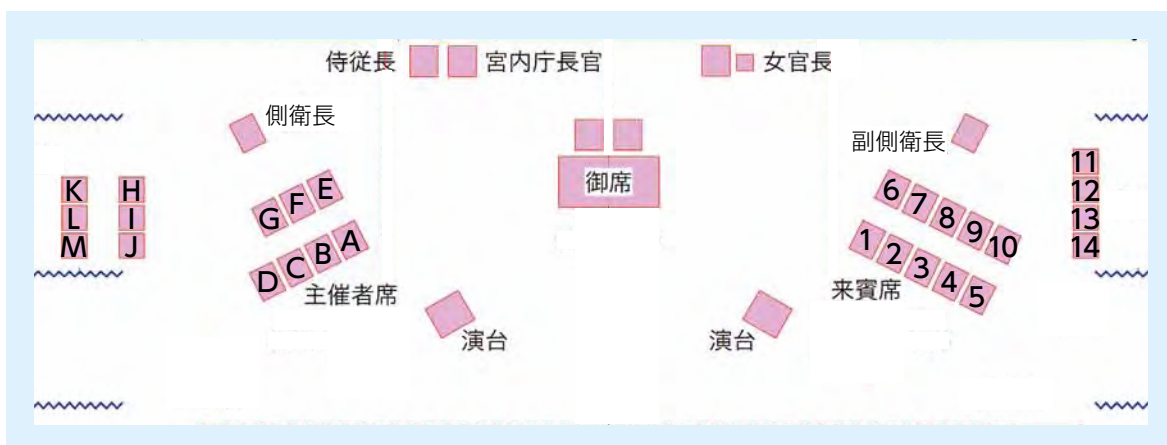


式典行事会場のおもてなしコーナーにおいて、土佐茶や室戸海洋深層水のほか、高知県で生産されているミレービスケットを提供し、招待者等をおもてなしました。





### □ ステージ座席表



- A** 大会会長（衆議院議長）
- B** 豊かな海づくり大会推進委員会会長  
（全国漁業協同組合連合会代表理事長）
- C** 高知県知事
- D** 高知県議会議長
- E** 高知市長
- F** 土佐市長
- G** 高知県漁業協同組合連合会代表理事長
- H～M** 式典補助員（高知県立高知南高等学校）

- 1** 農林水産大臣
- 2** 環境大臣
- 3** 水産庁長官
- 4** 秋田県知事
- 5** 最優秀作文発表者
- 6** 大会会長賞受賞者（功績団体代表）
- 7** 農林水産大臣賞受賞者（功績団体代表）
- 8** 環境大臣賞受賞者（功績団体代表）
- 9** 水産庁長官賞受賞者（功績団体代表）
- 10** 高知県知事賞受賞者（作品コンクール代表）
- 11～14** 式典補助員（高知県立高知南高等学校）







## □ オープニング映像

「森・川・海」のつながりを意識しながら、高知県の自然・食・伝統文化を紹介し、本県の魅力を伝えました。また、かつおの一本釣りやクロマグロの人工種苗生産など、本県の水産業の取り組みも紹介しました。



## □ プロローグ 「土佐の“偉人”に学ぶ 水の旅」

ナビゲーターの進行で、環境保全活動を行ってきた“子ども海援隊”たちが、「舟母船」で水の旅をしながら、土佐の偉人たちから「高知の森・川・海」のつながりの大切さを学んでいく様子をご覧いただきました。また、高知の森・川・海を象徴するパフォーマンスに加え、フィナーレでは高知県出身のソプラニスタ・岡本知高さんと、県内高校生等による盛大な合唱でエンディングを迎えました。

【ナビゲーター】 山崎 はるか

【子ども海援隊】 高知市立春野東小学校、高知市立春野西小学校



### 【第1章】 水の旅のはじまり ～中岡慎太郎に学ぶ“森”～

一行は、北川村の森で“中岡慎太郎”“吉村虎太郎”と出会い、森への歓迎として神楽で出迎えられました。海を守るためには、森と川を学ぶことが重要だと教えられた一行は、中岡慎太郎・吉村虎太郎より「舟母船」を授かり、川を下る旅へと向かいます。

【津野山神楽】 梶原ディスカバークラブ（高知県立梶原高等学校）

【中岡 慎太郎、吉村 虎太郎】 土佐おもてなし海援隊







【第2章】 “舟母船”で行こう! ～坂本龍馬に学ぶ“川”～

舟母船に乗って川を下ると、一行は“坂本龍馬”“武市半平太”と出会いました。高知の美しい清流、そこにすむ生き物たち、独自の文化や漁法などを学び、川の環境を守ることの大切さを実感します。

【ダンスパフォーマンス】 高知リトルプレイヤーズシアター

【坂本 龍馬、武市 半平太】 土佐おもてなし海援隊



【第3章】 さあ!黒潮の大海原へ! ～ジョン万次郎に学ぶ“海”～

大海原へと出た一行は“ジョン万次郎”“岩崎弥太郎”と出会い、雄大な太平洋、黒潮の流れがもたらす海の恵み等、これらの豊かな海が森と川の関わりによって保たれていることを学びました。

【和太鼓演奏】 土佐室戸勇魚太鼓

【ジョン 万次郎、岩崎 弥太郎】 土佐おもてなし海援隊

【一本釣りパフォーマンス】 國土舞双



【フィナーレ】 海の讃歌

時空を超えた“水の旅”で、偉人から、「森・川・海はつながっており、どれが欠けても高知の自然は守れない」ことを学んだ子ども海援隊は、自分たちの活動が森・川・海の保全に役立っていることを実感します。水の旅へと誘ってくれたナビゲーターに感謝していると、澄んだ歌声が響き始めました。盛大な合唱「浜千鳥」により、プロローグは幕を閉じました。

【ゲストソプラニスタ】岡本 知高

【コーラス隊】高知県立高知丸の内高等学校、土佐女子中学校、高知学芸中学高等学校、国立大学法人高知大学





## □ 大会旗入場

天皇皇后両陛下御臨席の後、認定こども園潮幼稚学園・うしお保育園の先導により、高知県立高知南高等学校の旗手団が大会旗を持って入場し、旗手団長が大会旗を土森正典高知県議会議長へ手渡しました。



認定こども園潮幼稚学園・うしお保育園



高知県立高知南高等学校



式典補助員



高知県立高知南高等学校

式典音楽隊



高知県立高知西高等学校



## □ 表彰

功績団体表彰受賞者（栽培漁業部門、資源管理型漁業部門、漁場・環境保全部門）及び作品コンクール入賞者（作文、絵画、習字）の表彰を行いました。

### ○功績団体表彰受賞者代表

大会会長賞：芸東地区沿岸漁業協議会【資源管理型漁業部門】

農林水産大臣賞：秋田県漁業協同組合天王支所天王潜水漁業者会

【漁場・環境保全部門】

環境大臣賞：輪島の海女漁保存振興会【栽培漁業部門】

水産庁長官賞：北川漁業協同組合【漁場・環境保全部門】

### ○作品コンクール受賞者代表

高知県知事賞：高知市立南海中学校2年 岡田 美咲

【絵画コンクール・中学校の部】







## □ 最優秀作文発表

## 「思い出とともに」

土佐市立土佐南中学校3年 明神 陽奈子

毎日の通学路、自転車に乗り路地を抜け、坂道を登る。潮の匂いとともに海岸沿いに出ると、朝日に照らされて輝く土佐湾が目の前に広がっていく。船が浮かぶ小さな港や、海と空の青によく映える赤い宇佐大橋に目をやりながら、学校へ向かう。

私が通う土佐南中学校では、地域の公園の清掃ボランティアを行っている。海に面したこの公園から釣りをする人も多く、釣り糸や釣り道具をそのまま放置していたり、ペットボトルやお弁当が捨てられていたりしている。また、海から流れ着いたものがそのままになっていたりもする。

初めて参加したときは、沢山のごみに驚いた。ボランティアの回数を重ねるにつれて、少しずつ減ってきたごみも、まだ無くならない。海を訪れ、楽しい時間を過ごしたら、その分海を大切にしたい、と少しの苛立ちを感じる。そんなときは、ごみを拾う手を止めて、一度顔を上げてみる。海の方へ視線を移すと、水面に小さい魚が泳いでいるのが見える。その様子を見ると、小さい頃に港から眺めた景色を思い出す。

私は、幼い頃から新鮮な海の幸を食べ、様々な形で海に触れながら成長してきた。

初めて船に乗ったのは二歳の時。父と母と三人で釣りに出かけた。しかし、釣りを楽しんだことよりも、救命胴衣を初めて身に着けてはしゃいだり、船の上でお弁当を食べたりしたことの方が、印象に残っている。

祖父と潮干狩りに行ったのは四歳の時。掘っても掘っても貝が見つけれず、砂の上に座り込んで、祖父が次々に見つける貝をただ眺めていた。一つも貝が見つけれず、機嫌が悪くなった私のために、自分が探っていた貝をもう一度埋め直して、

「ここを掘ってみいや」

と笑う祖父に、自分だけの力で採りたい、と駄々をこねて困らせたことを覚えている。

大きくなるにつれ、海に対する興味が増えていった。家族でお寿司を食べに行ったときも、

「この魚ってどんな魚？」

と父に聞いたり、その日食べたネタの魚について、家に帰ってから図鑑で調べたりした。父と釣りに行く機会も増え、夏休みの自由研究も海

に関わる題材を選んだ。

中学生になり、釣りに行く

ことはなくなったけれど、父と釣りに行き、釣ってきた魚を母と料理し、家族で美味しくいただく、という習慣は妹や弟に受け継がれている。

そして、海に興味を持つきっかけをくれた祖父も、今はもういない。祖父が使っていた船は、父が大切に使っている。時間が経てば、望まずとも幼い頃とは変わってゆくものが増える。しかし、その中でも、変わらないものもある。私にとってそれは、ずっと食べ続けてきた海の幸ではないだろうか。

いつもは、豊かな贈り物を沢山与えてくれる海。けれど、ときに牙をむき、私たちに大きな絶望感と試練を運んでくる。

私が小学一年生の時、東日本大震災が起こった。緊急地震速報の嫌な音、被害の様子を伝えるノイズ混じりのラジオ放送。異常な緊張感に体が震えた。テレビに映る津波の様子は、今でも鮮明に思い出せる。繰り返し流れるその映像からは、私が知る見慣れた優しく穏やかな表情は、全く感じられなかった。幼いながらに海の二面性を感じ、どちらが本当の姿なのか、と戸惑ったことを覚えている。

今では、そのどちらもが本当の姿であり、その二つの顔があってこそその豊かな海だと思える。いつもの優しく穏やかな海からは、そこで育った沢山の命をいただいている。そして、自然現象から垣間見えたもう一つの海からは、自分たちの命を守っていくことの大切さを学んだ。

いつの日か、私がかもっと大きくなり、生まれ育ったこの地を離れることになっても、この豊かな海での思い出と、それに対する感謝の気持ちを忘れずにいたい。





## □ 稚魚等のお手渡し

高知県立高知南高等学校生徒の介添えにより、天皇皇后両陛下が稚魚等をお受け者にお手渡しされました。

### ◎ 第1回お手渡し

天皇陛下がアマゴの稚魚を仁淀川漁業協同組合代表理事組合長の吉村正男さんに、皇后陛下がニホンウナギの稚魚を四万十川漁業協同組合連合会代表理事会長の堀岡喜久雄さんにお手渡しされました。



## □ お手渡し魚等



### ❖ アマゴ

- 本県の河川の上流部に生息し、その姿の美しさから「溪流の女王」と称される。
- 食味も良く、溪流釣りの対象として非常に人気があり、県内の多くの河川で稚魚の放流活動が続けられている。



### ❖ ニホンウナギ

- 近年、天然ウナギは全国的に減少傾向にあり、資源の回復に向けた気運が高まっている。
- 本県においても、各河川での種苗の放流や、禁漁期間の設定などにより資源の保護に努めている。

## □ お受け者



お受け者（アマゴ）  
仁淀川漁業協同組合代表理事組合長  
吉村 正男



お受け者（ニホンウナギ）  
四万十川漁業協同組合連合会代表理事会長  
堀岡 喜久雄



### ◎第2回お手渡し

天皇陛下がカジメを高知県漁業協同組合上川口地区地区委員長の坂本年史さんに、皇后陛下がアサリを高知県漁業協同組合理事の中山勝道さんにお手渡しされました。



### □ お手渡し魚等



#### ❖カジメ

- 沿岸の岩礁域に着生する海藻。
- カジメなどの海藻が形成する群落（藻場）は、さまざまな生き物の住処や餌場、産卵場として重要。
- 近年、藻場が衰退する「磯焼け現象」が進んでいるため、県内各地の漁業者などが藻場の再生に向けた取り組みを行っている。



#### ❖アサリ

- 土佐市宇佐地区の漁業の重要種であり、潮干狩りの対象として県民にもなじみの深い二枚貝。
- 近年、魚類の食害などによる減少が著しいため、資源の回復に向けた官民あがりの取り組みが行われている。

### □ お受け者



お受け者（カジメ）  
高知県漁業協同組合上川口地区 地区委員長  
坂本 年史



お受け者（アサリ）  
高知県漁業協同組合理事  
中山 勝道





## □ 海づくりメッセージ(海づくり八策)

高知県出身のソプラニスタ岡本知高さんの歌声に乗せて、県内の小学生や高校生、若手漁業者が、坂本龍馬の船中八策にちなんだ「海づくり八策」により、高知の海を未来につないでいくためのメッセージを発表しました。

### 【1策】未来を担う子どもたちのメッセージ

- ・【森】高知市立春野西小学校 かわだ ここあ おかはし のどか 川田 心愛・岡橋 和風

「1策。私たちは、豊かな海を守るため、海へとつながる森について学びました。高知県の84%を占める森林に雨が降り、栄養を含んだ綺麗な水が生まれています。森で育った植物や、動物の食物連鎖により、私たちの命も育まれています。これからも、森への感謝の気持ちを持ちながら植樹活動に参加したいです。」



### 【2策】未来を担う子どもたちのメッセージ

- ・【川】高知市立春野東小学校 つつい ひなこ 筒井 日和子  
高知市立春野西小学校 ほそかわ しゅんすけ 細川 峻藝

「2策。私たちの学校は、森からの美しい水が流れる仁淀川の近くにあります。鮎の放流体験をして、綺麗な水と生き物たちと一緒に生活していることを知りました。大渡ダムの見学をして、水力発電が人々の生活を潤していることを学びました。これからも、海へと続く川を大切にしながら、豊かな自然と関わっていきたいです。」



### 【3策】未来を担う子どもたちのメッセージ

- ・【海①】高知市立春野東小学校 きたむら かずし 北村 和志

「3策。僕たちは、美しい仁淀川から続く高知海岸で、アカウミガメの保護活動をしています。堤防などによってウミガメの産卵場所は限られています。無事に孵化できるように卵を学校で大切に育て、生まれた子ガメを海へと返しています。これからも、地域の人たちと協力してウミガメを守っていきたいです。」



### 【4策】未来を担う子どもたちのメッセージ

- ・【海②】高知市立春野東小学校 まつもと ひろま 松元 宥樹

「4策。僕たちは、綺麗な海岸、美しい海を保つため、清掃活動を行っています。海岸のごみがなくなれば、ウミガメが産卵しやすい環境になります。海が豊かになれば、海とつながる川も森も豊かになります。これからも、森・川・海、全てがつながっていることを忘れずに自然を大切にします。」





### 【5策】防災について学ぶ高校生のメッセージ

- 高知県立須崎工業高等学校 **青木 佑斗**  
高知県立須崎高等学校 **齊藤 和輝**

「5策。私たちが住む須崎市は、豊かな海の恵みによって支えられています。しかし近い将来、南海トラフ巨大地震による津波の被害も予測されています。地震に備え地域の方々と避難訓練や救命救急講習、家具固定のボランティア活動などを行っています。日頃学んでいる“ものづくり”の技術を活かし、簡易トイレなどの防災製品をつくっています。私たちは、培った知識と技術をお互いに共有し、これからも、“海と共に生きていく、災害にも強い街づくり”を行っていきます。」



### 【6策】若手漁業者のメッセージ

- すくも湾漁業協同組合理事 **高見 良・亜ゆみ 夫妻**

**高見良**「6策。私は、太平洋に囲まれた離島で生まれました。漁師である父の背中を見て育ち、20歳で初めて父とともに漁に出ました。現在は、かつおやキンメダイ、キハダマグロなど様々な魚を釣り生計を立てています。また、漁協の役員や漁業士として、若手漁師の模範となれるよう、日々努力をしています。」

**高見亜ゆみ**「沖の島は、色とりどりのサンゴや多種多様な魚に恵まれています。これまで、沖の島の環境を維持するため、海岸の清掃やサンゴの保護活動に積極的に関わってきました。」

**高見良・亜ゆみ**「これからも、島の美しい環境と伝統の漁業を次の世代に引き継いでいきます。」



### 【7策】若手漁業者のメッセージ

- 高知県漁業協同組合員 **山上 俊也・朱里 夫妻**

**山上俊也**「7策。私たち夫婦は、結婚を機に土佐清水市に移住してきました。全国各地を旅行する中で、高知の風土や温かい人々に惹かれたことが決め手でした。幼い頃から釣りが好きだったこともあり、移住後に漁師になりました。現在は、立縄で清水サバやキンメダイなどの漁を行っています。」

**山上朱里**「移住した当初は、慣れない土地で手探りでしたが、地元の皆さんに助けられ、漁の仕方やコツなどを教えていただきました。たくさんの人に恵まれて、今の生活があると実感しています。」

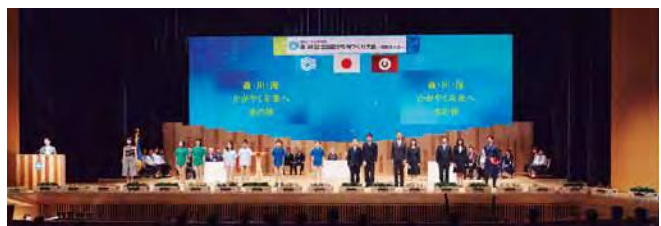
**山上俊也・朱里**「これからも、豊かな海が育む漁場を大切に、漁業の担い手が増えるよう頑張っていきます。」



### 【8策】大会テーマ唱和

- 会場全員

「森・川・海 かがやく未来へ 水の旅」







## □ エピローグ

### ◎表彰式

式典終了後、岩城孝章高知県副知事が功績団体表彰受賞者と作品コンクール受賞者へ賞状の授与を行いました。



### ◎よさこい鳴子踊り

よさこい鳴子踊りの歴史を映像でご覧いただいた後、地元高知のよさこいチーム「國土舞双」による「かつおの一本釣り」をテーマにした演舞、東日本大震災以降よさこい鳴子踊りを通じて本県と交流が続いている福島県浪江町の「Wonderなみえ」による演舞、「高知市役所踊り子隊」による正調よさこい鳴子踊りが披露されました。

最後に、プロローグの出演者も登場し、正調よさこい鳴子踊りの総踊りにより、会場の皆様をおもてなし、式典行事を締めくくりました。



國土舞双



Wonderなみえ



高知市役所踊り子隊

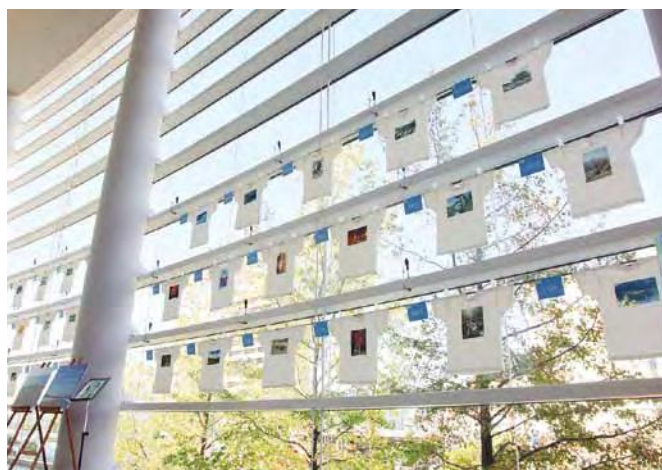




出演者による総踊り

## □ 会場展示

第38回全国豊かな海づくり大会を記念して、黒潮町・砂浜美術館で平成30年5月に開催された『第30回Tシャツアート展』へ、高知県内34市町村の豊かな自然や食、歴史、伝統・文化など自慢の写真が印刷された作品を出展しました。作品のテーマは「34のふるさと自慢」。豊かな海を望む壮大な砂浜の美術館で、ひらひらと潮風になびいた、34枚のTシャツを式典会場に展示し、ご来場の方々にご覧いただきました。



## □ 募金活動

公益財団法人漁船海難遺児育英会による募金活動が、学校法人高知学園高知中学高等学校の皆さんのご協力のもと実施され、来場された多くの皆様から総額272,134円の温かいご支援をいただきました。

